

2021年8月4日

各位

会社名 長瀬産業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 朝倉 研二
 (コード番号 8012 東証第1部)
 問合せ先 執行役員 経営管理本部長 清水 義久
 (TEL 03-3665-3103)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年8月4日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2021年5月11日に公表いたしました2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の業績予想を修正することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正について

(1) 当期の連結業績予想数値の修正(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上総利益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 120,000	百万円 23,000	百万円 24,000	百万円 18,000	円 銭 148.04
今回修正予想(B)	130,000	30,000	31,000	22,500	185.05
増減額(B-A)	10,000	7,000	7,000	4,500	
増減率(%)	8.3%	30.4%	29.2%	25.0%	
(参考) 前期連結実績 (2021年3月期)	114,600	21,916	22,854	18,829	151.91

(2) 修正の理由

2022年3月期第1四半期連結累計期間においては、当初想定していた自動車関連ビジネスの復調に加え、樹脂市況の高騰により樹脂ビジネスの収益性が改善したこと、モバイル機器・ディスプレイ需要の増加等を受けエレクトロニクス関連ビジネスが好調であったこと、またPrinovaグループの業績が米国の景気回復を背景として計画以上に推移したこと等から当初の見込みを大きく上回る結果となりました。このような状況は第2四半期以降も当面続くと予想しております。一方で、新型コロナウイルス感染症における変異種などの感染拡大が収まらず、日本での繰り返し発出される緊急事態宣言やアセアンでのロックダウン措置などにより、当初想定していた下期以降の経済活動の正常化についての見通しは不確実性が残る状況となっております。しかしながら、ワクチン接種が世界的に進むことで重症化リスクが大幅に軽減されることから、経済活動の回復が期待できます。

通期の業績予想につきましては、下期以降における樹脂市況の軟化に伴う樹脂ビジネスの減速や経済活動の再開による経費執行の増加が見込まれるものの、第1四半期が計画以上の実績となったことや、為替相場が当初の見込みから好転していること、活動制限の緩和による食品や土産物品の需要回復が期待されることから、各利益ともに2021年5月11日に公表しました通期連結業績予想数値を

上回る見通しとなり、通期連結業績予想を上方修正することいたしました。

為替レートは、第1四半期連結累計期間の実勢レートである1米ドル=109.5円、1中国元=16.9円を前提としております。

なお、各セグメントの通期連結業績予想は下記のとおりです。

		前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(参考) 前期連結実績 (2021年3月期)
機能素材	売上総利益	百万円 16,500	百万円 17,700	百万円 1,200	7.3%	百万円 15,562
	営業利益	5,700	6,600	900	15.8%	4,712
加工材料	売上総利益	27,000	29,500	2,500	9.3%	26,816
	営業利益	7,200	9,600	2,400	33.3%	7,311
電子・ エネルギー	売上総利益	25,500	27,400	1,900	7.5%	25,581
	営業利益	7,600	8,800	1,200	15.8%	8,408
モビリティ	売上総利益	10,500	11,200	700	6.7%	8,983
	営業利益	3,000	3,400	400	13.3%	1,851
生活関連	売上総利益	40,000	43,700	3,700	9.3%	37,471
	営業利益	7,200	9,300	2,100	29.2%	6,512
その他・全社	売上総利益	500	500	—	—	184
	営業利益	△7,700	△7,700	—	—	△6,879

(注) 当期より事業セグメントの区分方法を変更しており、前期実績については、当該変更を反映した組替後の数値を記載しております。

上記の予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により、予想とは異なる可能性があります。

以 上